

PAUL KLEE

パウル・クレー

『もっと知りたい パウル・クレー 生涯と作品』 新藤真知著 東京美術 2011年

みなさんは、パウル・クレーの絵をみたことがありますか？
いま、兵庫県立美術館で開催中の
『パウル・クレー だれにもないしょ。』展が話題になっていますね。
そこで今月のテーマは、パウル・クレーです。
不思議でたのしいパウル・クレーの世界へご招待

クレーの絵

クレーの絵は、ときに難解で、ときにわかりやすい。こどもの絵のような、
ときにはユーモラスな絵もあります。また、文字を絵の中へ取り入れた作品も有名です。
クレーはヴァイオリンの名手でもありました。その音楽的な部分も作品に
多大な影響を与えています。リズムとメロディーを奏でる音楽のように、
クレーは絵の中に、リズムをきざみ、曲想をしずませました。
これが、クレーの絵が、「絵」という概念を飛びえ、
とても自由で鮮やかである理由のひとつなのです。

クレーと戦争

クレーは第一次世界大戦、そして第二次世界大戦の戦火のなかを生き抜いた
画家でもありました。自身も軍隊へと駆り出され、その中で友の死や、敗戦を
体験しながらも、クレーは戦地でも絵を描き続けました。

死を間近にして...

クレーは自分の死期を感じるとともに、それは絵にも表現されています。
有名なあの天使の絵もそうなのだそうです。クレーが遺した別れの挨拶がこの
自由奔放な線、表情豊かな天使たちにあらわれているのでしょうか。天使以外にも
自分の死期を前に、クレーが描いた作品からは、クレーの叫びが伝わってきます。
60歳でこの世を去るまで、クレーは病と闘いながら描き続けました。

おまけ

クレーの作品が料理に？！

『クレーの食卓』

林綾野著 レシピ・料理・文 新藤信 編著 講談社 2009年

クレーは食いしん坊だったんだそうです。みずから料理をしていたことも！
そんな料理人でもあったクレーの、思い出がつまった料理を、
クレーのメモをもとにしてつくったレシピとともに...

